

チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名（注１）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-（事務局用）	地域に暮らす人々が交流しながら、地域について考えることができる仕組みづくり	兵庫県宝塚市
チームがつけたアイデア名（公開）（注２）	世代間交流による地域社会のレジリエンスの強化		

（注１）地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注２）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	雲雀丘学園「地域共生」探究ゼミ		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
メンバー数（公開）	17 名		
代表者（公開）	和田 由起子		
メンバー（公開）	大西 優夏、西尾 恵実、北山 桜花、西川 美桜、西村 夏乃、鶴丸 和香、加東 ゆい、上島 万櫻、上田 万結、丹蔵 穂香、勝川 直彌、溝田 茉央、櫻井 勇介、鮫島 輝美、延命寺 昭典		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2022_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アロボイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	確認後ここに結果（○）を記入
--	-----------------------

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

＜応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください＞

新しい地域のつながりの形を創る！

＜この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます＞ <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

＜よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です＞

雲雀丘学園探究ゼミでは、地域のコミュニティスペース「ふれあいテラス」の利活用をテーマに取り扱いました。

スペースの利活用を考える前に、社会福祉やユニバーサルデザインについて学んだり、宝塚市役所の職員や地域に関わる方々から、地域「サロン」の問題点を伺ったり、実際に自分たちから地域の夏祭りに参加を志願し、地域住民の方々と交流を深めてきました。

その取り組みを通じて、学生が実感した地域高齢者のニーズはこのようなものでした。

- ・デジタル社会に対応できていなくて…
- ・自治会に参加してほしい。知ってほしい。
- ・若い世代とも関わりを持ちたい。人との繋がりがほしい。

これらのニーズに応えるため、「ふれあいテラス」で、学生が描いた書道作品を展示したり、インスタグラム教室やスマホを使った脳トレゲームイベントを企画したり、学生が中心となって、地域コミュニティの方々や高齢者と交流することができました。スマホなどのデジタルツールについて、高齢者の方々も熱心に聞かれていました。



2. アイデアの説明（公開）

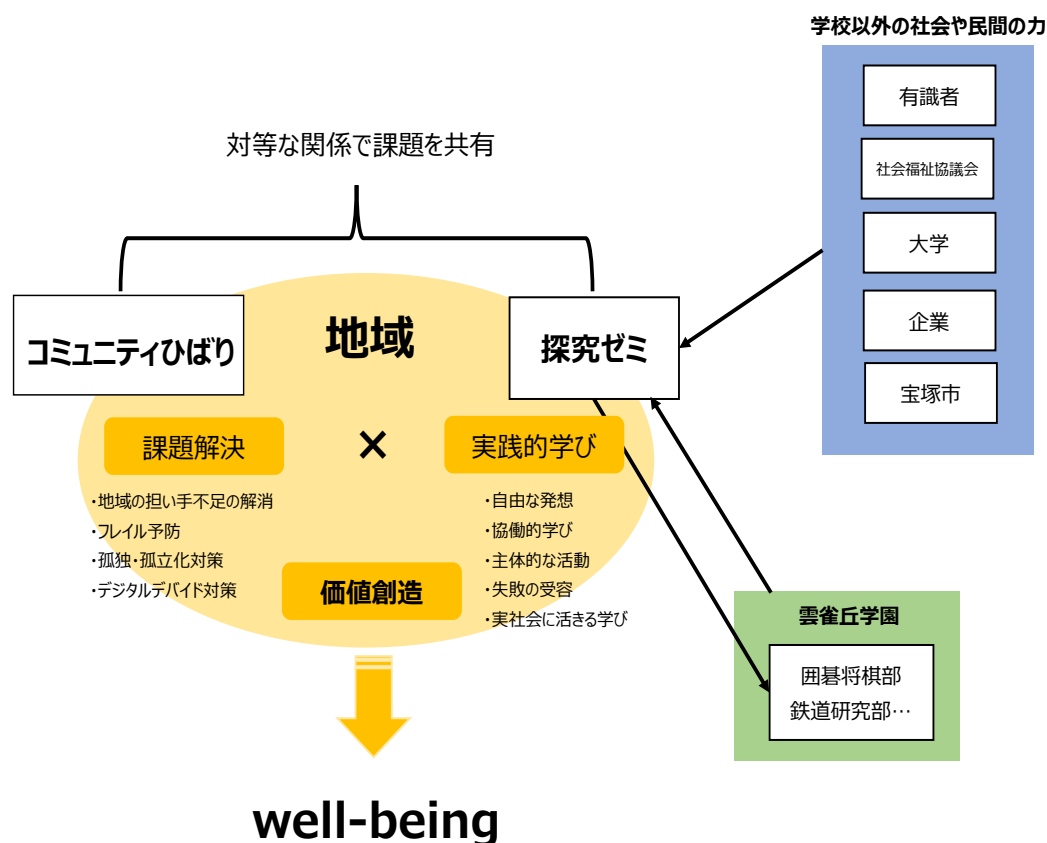
(1) アイデアの内容（公開）

また、長尾台小学校区まちづくり協議会コミュニティひばり（以下、「コミュニティひばり」）の広報担当者の方から、どうしたら、地域の取り組みを知ってもらえるかについて、学生と意見を交わす場面もありました。

今回は、地域「サロン」再建という地域の課題でしたが、このような取り組みを継続することによって、地域の課題に対する**地域住民の当事者意識を高める**だけではなく、高校生が実践的に活動するという**教育的要素を加える**ことにより、社会活動の中心である親世代へのアプローチも実現し、**断絶されていた若者・大人・高齢者の各世代の交流を創造することが**できます。

また、高校生が高齢者のスマートフォンの先生になったり、高齢者が高校生に人生のアドバイスをする先生となったりするように、**対等な関係**であることが大前提であり、学生が地域の労働力を担う立場になるのではなく、これから社会を創っていく学生にとって、**地域が学びの場となる**ことが必要であると考えます。

そして、この取り組みを発展的に継続していくためには、このつながりを基盤として、大学や企業等の関係を築き、学生による実践的な学びの質を高めていくことが求められます。これらの関係性が強固になっていくことで、新たな地域の価値が見いだされ、その地域に関わる人が増えていくという好循環が生まれることを期待します。



(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（１）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

コミュニティスペース「ふれあいテラス」の現状

地域のコミュニティスペースである「ふれあいテラス」は、阪急宝塚線雲雀丘花屋敷駅から徒歩 1 分にあり、コミュニティひばりが、宝塚市より借用し、地域住民による相談窓口を開催していたが、利用者が少なく、令和 3 年度をもって相談窓口の活動は終了し、現在、具体的な活動は行われていない。

雲雀丘学園とは？探究ゼミとは？

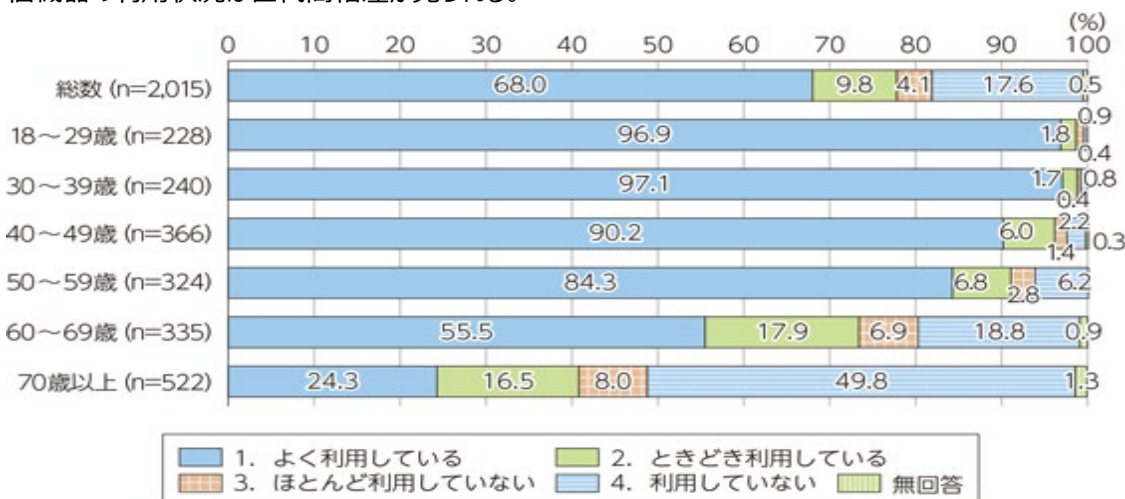
雲雀丘学園（以下、「本校」）は、雲雀丘花屋敷駅から徒歩 3 分の場所に所在しており、本校の成り立ちは、大正 11 年（1922）、阿部元太郎を中心とする住民によって私立小学校「財団法人雲雀ヶ丘学園」が設立され、大正 13 年に「雲雀ヶ丘家なき自然幼稚園」が開設されたことに由来する。その後、昭和 16 年頃には、学校とつながる形で雲雀丘駅が建設され、本校は長きにわたり地域コミュニティの中心に在り続けていた。本校の高校 2 年生を対象とした実践的な学びの中で学生が主体的に活動していく「探究ゼミ」という取り組みがある。

コミュニティひばりや高齢者の現状

・コミュニティひばりがある地域の高齢化率は、2018 年 3 月の時点で、33.1%であり、自治会の加入率は年々低下（2018 年 6 月時点で 51.65%）し、担い手不足やつながりの希薄化がうかがえる。（2019 年 2 月更新宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会地域カルテ）



・高齢者はスマートフォンやタブレットの利用率が低く、特に 70 歳以上の高齢者の利用率が低くなっており、情報通信機器の利用状況は世代間格差が見られる。



内閣府（2020）「情報通信機器の利活用に関する世論調査」を基に総務省が作成

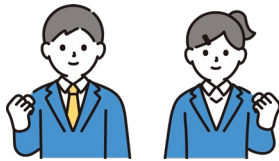
地域の気持ち

- ・高校生と交流すると元気がでくるので、関わりを持ち続けたい。
 - ・地域のことを高校生が考えてくれるのだから我々（地域）がもっと活躍できる場を作ってあげるべき！
- ⇒ポジティブな意見に変化した。

2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

学生の気持ち👤



- ・高校生の自分が役に立てることを知った！協力できることがある！
 - ・自分たちの得意なものを広めたい。・違う世代の人と交流できることは楽しい！
- ⇒ポジティブな意見が多い。

これからの時代における教育👤

今回の探究ゼミでの活動は、今後の教育の根幹となる「協働的な学び」の実践型といえます。

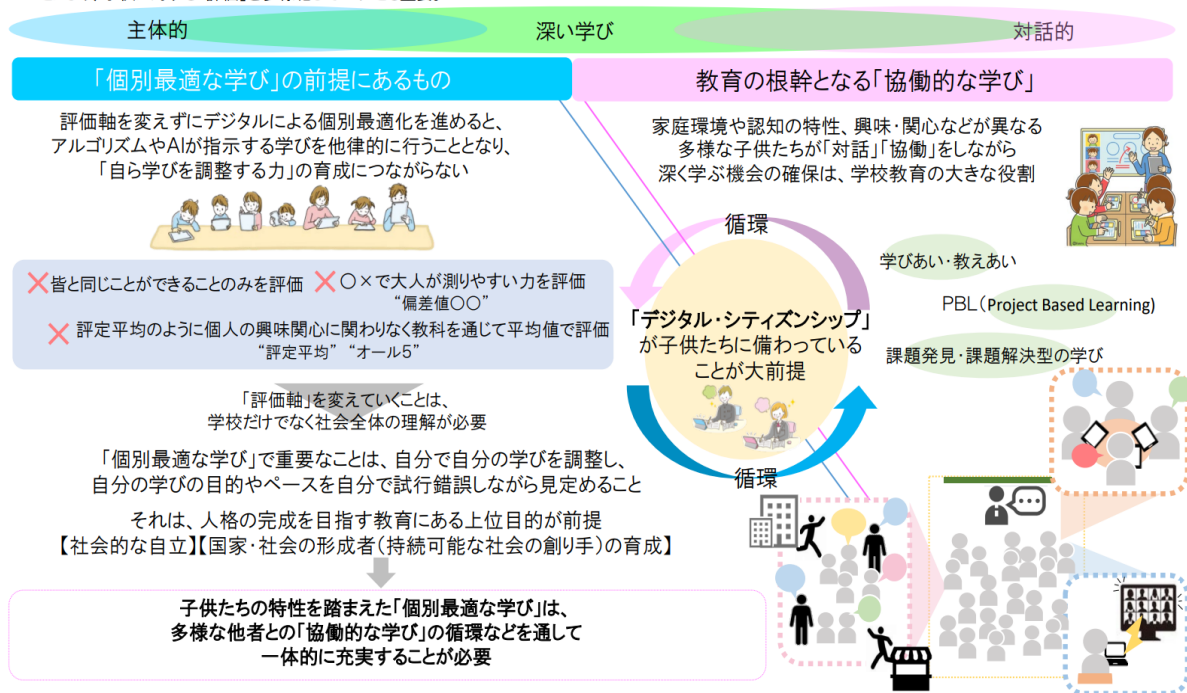
18 歳で大人として責任を取らなければならない立場になる前に、地域で失敗を受容してもらえる実践型の学びこそが、大人になり、社会出て、日本や世界でのイノベーションを起こす力となると信じております。

3. 3本の政策と実現に向けたロードマップ

【政策1】子供の特性を重視した学びの「時間」と「空間」の多様化＜目指すイメージ③＞

25

これまでの「皆と同じことができることのみを評価」することや「大人が測りやすい力を評価」をする構造やそれらを重視する価値観を変えずに、デジタル技術を最大限活用した「個別最適な学び」を進めた場合、子供はアルゴリズムやAIが指示する学びを他律的に行うこととなり、次代において、最も重要な「自ら学びを調整する力」の育成につながらない。「個別最適な学び」の本質は、自分で自分の学びを調整しながら、試行錯誤を繰り返すことであり、さらに、多様な子供たちが「協働」で学ぶ機会が確保されることが学校教育の役割。そして平均点主義を脱し、「評価軸」を変えていくことは、学校だけでは困難であり、企業・大学・保護者など社会全体の理解とともに変えていくことが必要。子供が多様な人に触れ、学校にとどまらない学びの場所を提供することで、子供の持っている良さや可能性を多様な第三者から引き出すことにより、子供に対する「評価」を多様化していくことも重要。



(2022 年 6 月 2 日 Society 5.0 の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ)

3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. 実現する主体

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

1. 実現する主体

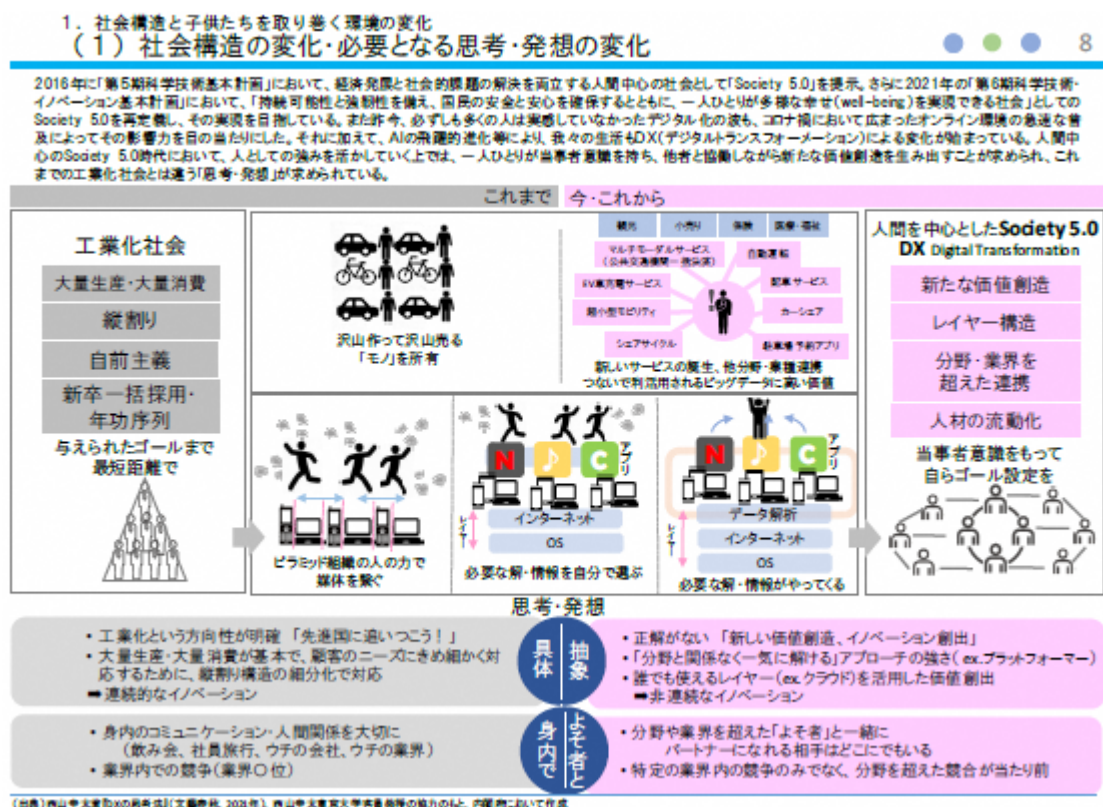
雲雀丘学園探究ゼミ

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

今後取り組む内容によって異なる。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

来年度については、この探究ゼミの活動として、データサイエンスをテーマに掲げ、地域住民の方々との交流から生まれた気づきや課題について、データを使って、地域の方々と一緒に考え、解決していきたいと考える。



（2022年6月2日 Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ）

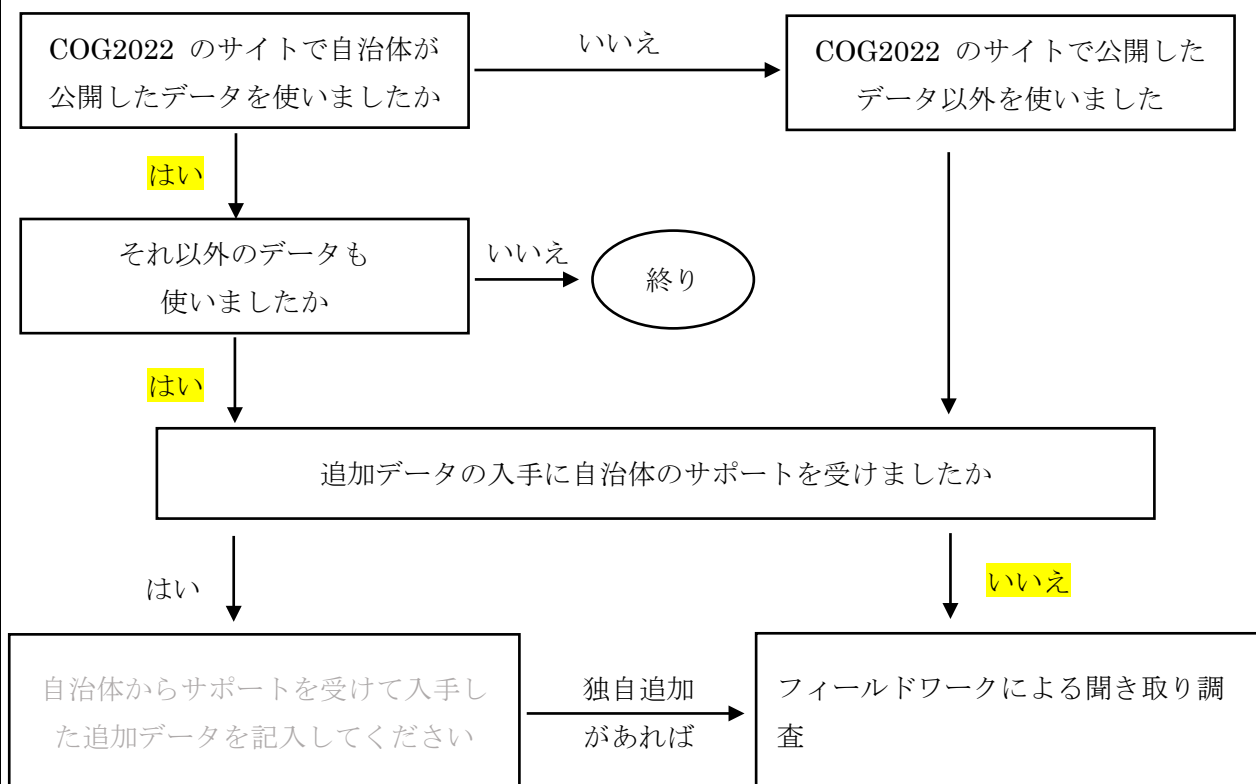
A large empty rectangular box with a thin black border, occupying the central portion of the page. It is intended for the user to provide details for the '2. Idea Explanation (Public)' and '(3) Idea Realization Process (Public)' sections.

4. 自治体との連携（個別の回答は非公開）

秋のアイデア考案段階における課題提示自治体との連携状況について、以下の質問にお答えください。

個別の回答は非公表ですが、統計データとして処理して公開することはあります。

< 1. 利活用したデータ（数値データだけでなく定性データ・報告書なども含む） >



< 2. 自治体とのコミュニケーション >

貴チームと自治体の中でコミュニケーションはありましたか	いいえ	終り
はい		
コミュニケーションの具体的な内容と頻度を記入してください		
意見交換等への参加（4回）、学生との意見交換会の実施、地域の人と学生の交流会の実施		

< 3. その他の自治体との関係 >

この記入は任意です もし特記事項があれば記入してください なければいりません
--

チームメンバー一覧（このページはチーム名とメンバー氏名で公開とされた場合の氏名を除き非公開 注 1 参照）

チーム名（公開）	雲雀丘学園探究ゼミプロジェクト
----------	-----------------

チームメンバー（注 1）

※「氏名（代表者とメンバー）」、「氏名の公開/非公開（プルダウンで選択）」、「分担内容と全体の中業務量分担比率（％）」の欄は必ずご記入ください。

※代表者の方も含めて、ご記入をお願いします。

※「職業」、「所属」、「社会的活動」、「性別」、「年齢」の欄は任意でご記入ください。

※各メンバーにつき、氏名を公開とするか非公開とするか、必ずご選択ください。

※フォームの都合上、以下では仮に 8 名分としていますが不足の場合は追加してください。

氏名	氏名の 公開/非公開	分担内容と比率（注 3）		職業 （注 4）	所属 （注 5）	社会的活動 （注 6）	年齢 （注 4）	性別 （注 4）
		内容（具体的な作業の役割）	比率					
和田 由起子	公開（代表）	探究ゼミの代表（学びのデザイン）	50%	その他	雲雀丘学園中高等学校		50～59 歳	女
学生 1 2 名	公開	地域の問題点を考える	30%	学生	雲雀丘学園高等学校		20 歳未満	女
太田 昌憲	非公開	地域と学生とのつながりを作る	10%	団体職員※	宝塚市社会福祉協議会		40～49 歳	男
櫻井 勇介	公開	探究ゼミ及び学生への学びのサポート	4%	その他	伯鳳会グループ 広報室 室長	リレー・フォー・ライフ・ジャパン 芦屋 副実行委員長	30～39 歳	男
鮫島 輝美	公開	探究ゼミ及び学生への学びのサポート	4%	その他	関西医科大学 看護学部		50～59 歳	女
延命寺 昭典	公開	未来の地域の創造	2%	会社員※	プログラボ		40～49 歳	男
（サポーター氏名）（注 7）	非公開	いなければ無記入。複数の場合は代表の方のみ。		サポーターのご所属と応募アイデアチームとの関係をここにご記入ください。				

（注 1）ご記入いただいた個人情報、COG 事務局にて厳重に管理し、COG の運営・統計処理による参加者データの解析等、研究の目的にのみ使用し他の目的には使用いたしません。

また、ご記入いただいた個人情報は、本応募用紙 1 ページ注意書き 2. の扱いにより公開される代表者氏名とそのほかのメンバーで上の表に氏名を公開とされた場合を除き、本人の同意がない限り、第三者に開示提供いたしません。氏名の公開非公開はプルダウンで選択できます。

（注 2）代表者の自治体との関係が本応募用紙 1 ページで「3. その他の場合」を選ばれたとき

代表者属性、代表者を推薦する方の氏名、推薦者と応募アイデアとの関係を以下にご記入ください。

代表者の属性：C,D,E の選択	推薦者（自治体居住か通勤通学の方）の氏名：
推薦者はチームメンバーか否か	1. メンバーです、2. メンバー以外です（どちらか選択してください）
推薦者の応募アイデアとの関係	

（注 3）分担内容はチーム内での各メンバーの具体的な作業の役割をお書きください。

比率は全体の作業を 100 とした場合に各メンバーの分担した比率を大まかに書きください。

ごく少なくとも構いません。

（注 4）職業、年齢、性別はプルダウンメニューの中から選んでください。

「職業」の選択肢：会社員※（含む役員）、パート・アルバイト、自営業、公務員、団体職員※（含む役員）、主婦、学生、無職、その他

「年齢」の選択肢：20 歳未満、20～29 歳、30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳、60～69 歳、70 歳以上

「性別」の選択肢：女、男、無回答

（注 5）所属がある場合は組織名、部署をお書きください。学生（高校生、専門学校生、大学生、大学院生）の場合は、所属学校名、学科をお書きください。

（注 6）「社会的活動」については、職業とは別にボランティアなど社会的な活動をされている方はその活動を適宜お書きください。

このページは非公開

（注7）サポーターとは、メンバーには入っていませんがチームの活動を側面からサポートしている方のことです。おられる場合のみです。例：授業やゼミの先生、側面から支援している地域の方、など。

（以下事務局用空欄です 記入しないでください）